

Ave Maris Stella



for Ashaki



なるほど…
こいつは
見逃せませんね



離せう……

！っ
！生…っ

実に美味しそうな
エナジীরの
持ち主だ！

スッ

待ちなさい！

邪悪な気配の主よ
何者かは
知らないが...

その行い
海王星を守護に持つこの
セーラーネプチューンが
許さない...!

なかなか勇敢な
お嬢さんだ
……

だが君は私に
手出しはできない



何ですって
……?!

もっともこのお仲間が
どうなっても良いと
言うのなら話は
別だがね……

セーラー
ウラヌス……

さあ……
どうかしてね



ウラヌスを
隠しなさい！

当たった
……！





そう……

それならもう
遠慮は
しなくてよ



流石だ、と
言いたい所だが
……

その程度の力では
私に触れる事すら
出来ないよ……



おやおや……
見かけによらず
強情なレディだね

邪悪な気配が
どんだん
高まって来る……！



そうまで言われると
服従させてみたく
なるというものだ
……

私の
足元で……！

……！
……！
……！

何てスピードなの
……?!

このままじゃ
私も……!

とても
かわしきれない……

あ……





フフフ…
もう降参かね？
あと少しは楽しめる
と思ったんだが……

どうやら私の
思い違っていた
様だね

…そうかしら？

確かに貴方の
スピードは凄いいけど
いつまでも同じ手を
続けるのかしら？



私に勝つおつもりなら
もう少しエレガントな
戦い方をなさったら
？

ねえ
エセ紳士さん
？

……



何だ
...?

悪の理力を司る
この私によくも……
口を慎め！

……

悪の…理力…
何て恐ろしい力なの？

あんな力に囚われたら
私の正義の心は
失われてしまうわ…



出て来なければ
君の大切な仲間の
エナジーを
頂いてしまうよ…

かくれんぼは
終わりだよ

さあ…
出ておいで

ウソクス



あー

ウラヌスには
手を出さないで
……



あー





フフフ…
そんなに
この仲間が
大切なのかね？



どうしてそこまで
この役立たずの
仲間にとだわる
？



だって…

貴方に話す
必要はないわ

だけど貴方に
ウラスのエナジーを
絶対に触れさせない
……

ウラスのいない
世界なんて守つても

私には何の
意味もない…

そうか…
では代わりに
君のエナジーを
頂くとしよう…

いやあああ
!! つ…

ああ…
戦士の力が

悪の理力に
吸い取られていく

正義の心も
壊れてしまおう...

でもダメ

この心だけは...
絶対に渡せない



何故だ...
?!

何故私に
エナジーを渡さない
?!

エナジーを貴方に
渡すということは
正義の心を手放すと
いうこと……


私は戦士ですもの
それだけは
絶対にできないわ
……

あ……

戦士だって……？
もうロクに
動くことも
できない君が？



笑わせないで
買いたいわ…



それなら…
私にも考えがある
君がエナジーを
渡さないというのなら

私が
この手で引きすり出して
頂くとしよう
…体の内側からな！



では…
あのお仲間から
エナジーを頂く
事になるが…
宜しいかね？

私は
君たちのうち
どちらのエナジーでも
構わんだが…
？



そんな…嬉し…
…ああっ！
やめてえ…っ
！



20



フツ…ようやく
云うことをきく
気になったか…

……







フフフ…
気に入ったかね？
私の精液の味は

強力な催淫作用で
君もすぐに
欲しくてたまらなくな
るはず…

ヒルル



さあ…次は
君の戦士の心を
壊すとしよう



いやあ…

いつまで正気を
保てるかな…？

ヒュッ



ふん…
乳首をそんなに
尖らせて…
何を云っているんだ
？！

びくッ…

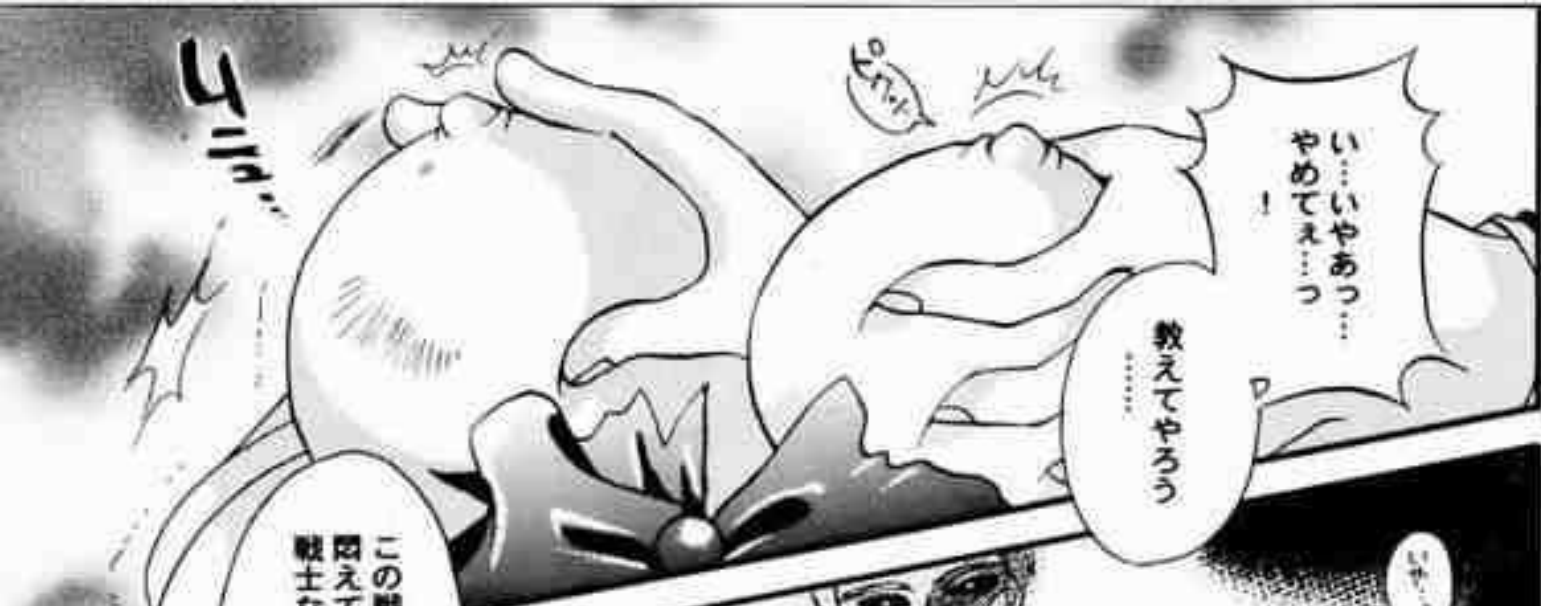
あ…

…



ギョッ

ギョッ



この戦闘服の下で
隠れている君は
戦士などではない
.....

ただの逞いな
雌たどりついでき
.....



い...
あ...
あ...



...んんっ...

ズン!!



ヌル!!

おや...もうこんなに
濡らしていたのか？

そんなに感じて
もらえるとは...
実に光栄だ



あっ…
はああっ…

どんどん
溢れてくるよ…
本当にいやらしい
穴だ…

さあ…
最高のエナジーを
頂くとしようか



あっ…



んんっ…



そして君には
最高の快楽を…
森囃らしい
取り引きだろうか？



あひ……
あひ……

グッ……グッ……



あひ……

そうだ……
そのまま快楽に
身も心も任せるがいい

そうすれば
君が速する瞬間に
エナジーは私のものになる



フツ……ようやく
この快楽を受け入れる
気になったな……？

あひ……
あひ……



快柔もエナジーも
大きい方がいい
…そう思うだろう？

そう恨めしそうな
顔をするな…

さあ…立って
壁に手をつけて
お尻を私に
向けてごらん



そ…
そんな格好…
私…

早く
!!

そう…
それでいい

いい眺めだよ
……

この角度から
挿れると
最高の快楽が得られる
……

ひゃっ
……

ああ
……

……
うひゃっ



おや……？
さっきよりもずっと
感じているじゃないか

そんなに
気に入ったかね
？

あー……



いいだろう
イキなさい……

そしてエナジーを
私に……っ！



「反撃のチャンスは
あと一度だけ……」

さあ……
私も射撃すぞ
……っ！

この男
絶対に倒してみせる
……っ！



うっ……
んんっ……！

ああ…
私もイッてしまいそう…

ん…っ

んんっ…

でも絶対にダメ…

エナジーを…

戦士の心を
守らなければ…!



…何だ?
この光は
…っ!



私の戦士の心…
悔って買っては
困るわ



貴方は私の
心の隙に
つけ込もうとしたけれど
……

自分の心にも
隙ができることまでは
気付かなかったようね



消えなさい!

ディープ・
サブマージ
!!



終わったわ…



ああ…

身体が…熱い！



んんん…

んんん…



ネフチユーン
.....
!



僕の責任だ……

……



一体どうすれば
彼女を救える？



ネプチューン
大丈夫か？！

ネプチューン
……



……

ウラヌス
……

ごめんなさい
ウラヌス……

何を謝ってるんだ
君は…？



聞いて
ウラヌス…

私…もう一緒に
戦えないかも
知れない…

悪の理力を
注がれて
汚れてしまったから
………

もう少しで
戦士の心も手放して
しまう所だったの

だから…
私はもう…っ

もう何も
言わないでくれ



あ…

僕たちは
決めたじゃないか
ずっと二人で
戦って行ってくて
……！

そうね
でも……

それに
こんな事で君は
汚れたりほしくない
……！

それなら
お願い……

あなたの
正義の理力を
注ぎ込んで……

私の腹内に……









ジュッ...

ジュッ...

ズッ...ズッ...

ヒッ...

ああっ...凄いや
君の腹内...!

いっばいに拡がって
僕に絡みついてくる
...っ!

お願い…
いっばい注ぎ込んで
あなたの理力…

私の腕内
いっばいにしてえ
……っ！

いっばい注ぎ込んで

いっばい注ぎ込んで

いっばい注ぎ込んで

いっばい注ぎ込んで

!!!
うううう



それは
あなたとの絆

君がそんな
表情するの

久しぶりだな
.....



.....
どうしたの
?

——戦いの日々の中だ

ただひとつ
私が見つけた確かなもの



そうっ

あなたと居られて
幸せだからかしら
？

あなたと共に
在るために

これからも私は
戦い続ける

【END】

Ave Mari's Stella



for Adult